

まちかどの元気印

日本共産党

市会議員



山田こうじです！

2020年8月23日

NO.241

事務所：西院上花田町36-3

電話：222-3728

携帯：090-3970-4701

山田こうじ共産党検索

保健師体制の抜本的強化を！

新型コロナウイルス感染者が京都市でも再び増え続けています。

そのもとで、第一線で対応している保健師の働き方は本当に深刻な状況になっていきます。

新型コロナウイルス感染症の相談や患者発生後の積極的疫学調査、検体の運搬、自宅やホテルの療養者や自宅待機者の健康観察などコロナ対応業務を中心にしているのが、医療衛生企画課の感染症担当部署の保健師です。

4月から5月にかけて他部署から応援に入っていました。緊急事態宣言解除後は、応援体制が縮小しています。

そこに6月下旬から感染者が急激に増加したこ



とで、7月には「終電でも帰れない」「帰宅するのは日付が変わってから」と異常事態になっていました。

8人増員で体制強化？

京都市は7月29日に開催した新型コロナウイルス感染症対策本部会議で、8月1日付けの保健師の体制を見直し「8人増員で体制強化」と発表しました。

8月3日の総務消防委員会、加藤あい委員（左京区・共）が「新たに保健師を採用するということか」と質しました。

藤田人事部長は「新た

な採用ではなく、既存の職員で対応する」と答弁しました。

医療衛生企画課の現場では「これが体制強化なんて、とんでもない」との声が沸き上がっていました。

区役所医療衛生コーナーにいる32人の職員うち8人を「慢性感染症対策は落ち着いている。限られた人的資源を有効に活用する」というもので、体制強化と言えるものではありません。

「応援に行ける体制は大事だが、残った仕事を補う増員が必要。それを

せずに保健師を便利使いしている。保健師の数はこの間増やしてきているが、業務は多岐にわたっている。兼職ばかりで、専門職としてのモチベーションは上がらない」との声が現場からは聞こえてきます。

保健所を行政区に戻し体制強化を！

党議員団は「医療衛生分野の職員の増員を図ること」「保健所を行政区に戻し機能を強化すること」を求めてきました。

市民の命と暮らしを守る体制強化を求めます。

8月7日に行われた、右京区社会保障推進協議会が呼びかけた、右京区役所保険年金課との懇談会に参加してきました。

コロナ感染症による雇用者の傷病手当が実施されることは一歩前進ですが、懇談では「京都市国保制度には傷病手当はない。恒久的な制度ではない」との認識でした。

国民健康保険料のコロナ減免の特例について「世帯主と、主たる生計維持者の収入」についての考え方、コロナ感染症の影響で確定申告が8月以降に遅れた場合の取り扱い、限度額認定書の対応問題など、様々な問題で懇談が由来しました。

まいごおき

三田川くさくさ！

NO.235

戦後75年の熱い8月。8月6日は三条大橋で、被爆2世3世の会が呼びかけたキャンドルビジルに参加し、8月9日は、右京原水協のよびかけた、西院での核兵器廃絶を呼びかける署名宣伝行動に参加しました。

8月6日には、3ヶ国が、8月9にもセントクリストファー・ネビスが核兵器禁止条約を批准し、批准国は合計44ヶ国。発行まで6ヶ国となりました。セントクリストファー・ネビスは人口5.3万人の小さな国として、世界平和に大きく貢献しています。

一方、唯一の戦争被爆国日本はアメリカの核の傘にしがみつきみじめな姿をさらけ出しています。

